

思い通りの写真が撮れる

最新機能を生かす デジカメ撮影術

デジタルカメラは各種の撮影モードを備えている。全部お任せで撮影することも可能だが、各撮影モードの特徴や傾向をつかんでおけば、撮影の幅が広がるし、自分で思った通りの撮影ができる。今回は、各撮影モードがどんなパラメーターを設定しているのか、その意味を探る。

第2回 カメラが備えるモードの意味を知る

撮影・文 小林 伸=フォトグラファー

デジタルカメラには撮影モードを選ぶためのダイヤルが付いている(図1)。取扱説明書を見ると「撮りたい被写体や、操作したい機能に合わせて、モードダイヤルで撮影モードを設定します」などと書かれている。ここで、「カメラ」のアイコンや「AUTO」などと書かれたアイコンを選ぶと、「カメラに全部お任せ」の撮影モードになる。

全部お任せとは被写体の認識から始まり、露出はもちろんオートフォーカス(AF)のモードやISO感度、

想定される被写体に合うコントラスト、彩度、シャープネスまで総合的にカメラが判断して調整する撮影モードのことだ。最近の被写体認識の精度は大変高く、完全に間違い、例えば人物を撮影しているのに夜景モードに設定されるようなことはめったにない。判断がつかかねる状況の場合は、より安全な設定、つまり全てのパラメーターを標準状態にして撮影するようになっている。

確かに、カメラに全部お任せのモードは簡単だし、便利だ。しかし、

それでは「こういう写真が撮りたい」と思っても、どう撮影すればそうなるのか、いつまでたっても分からない。被写体の認識などは機械に頼らずとも自分でできるし、全てをカメラ任せのモードにしなくても、ある程度は判断できるはずだ。また、そのモードがどういうパラメーターで撮影しているのか、その傾向をつかんでおけば、別の撮影シーンで使用してみたら面白い写真になるかもしれない。全部お任せにはせずに、積極的に撮影モードを自分で変更するようにしていこう。

●撮影モードを決める「モードダイヤル」



静止面の撮影モードを変える

撮りたい被写体や、操作したい機能に合わせて、モードダイヤルで撮影モードを設定します。

1 モードダイヤルをまわしてお好みのモードを選ぶ



カメラまかせて自動撮影する

露出(シャッタースピードと絞り)など、多くの機能が自動で設定されます。

i (カメラまかせオート撮影)	シーンを認識し、自動設定で撮影する。
iF (フレミングオート撮影)	カメラまかせでシーンとコンディションを認識し、適切なシーンに応じて自動で撮影設定を調整し、最適な設定で撮影する。 * 露出値は自動的に、露出の範囲が広がります。
SCN (シーンセレクション)	撮影条件に合わせて、あらかじめ用意された設定で撮影する。

かんたんモードについて

iF (カメラまかせオート撮影)に、MENU→EASY(かんたんモード)で、必要最小限の機能を使って撮影するかんたんモードになります。文字が大きくなり、表示が見やすくなります。

図1 撮影モードを変更するダイヤルに描かれているアイコンに関しては、メーカーや製品によって多少ばらつきがある。取扱説明書を確認してみよう

種類が増えた撮影モード

撮影モードダイヤルには大きく分けて露出だけをカメラに任せるモードと、そのほかの色みなどの調整もカメラに任せるモード、さらに動画やパノラマ撮影など特殊な撮影機能がアイコンや文字などで表されている(図2)。

露出だけを任せるモードというのは、「A」「S」「M」「P」といった文字が書かれたアイコンを選ぶモードのことだ。Aは絞り優先、Sはシャッタースピード優先、Mはマニュアル露出、Pはプログラムオートの設定を意味する。メーカーによってはAをAv(アパーチャバリュウ)、SをTv